

昭和十二年一月二十三日 第三種郵便物認可
昭和十五年一月二十五日 印刷納本
昭和十五年二月一日(毎月一回)一日發行 禁轉載

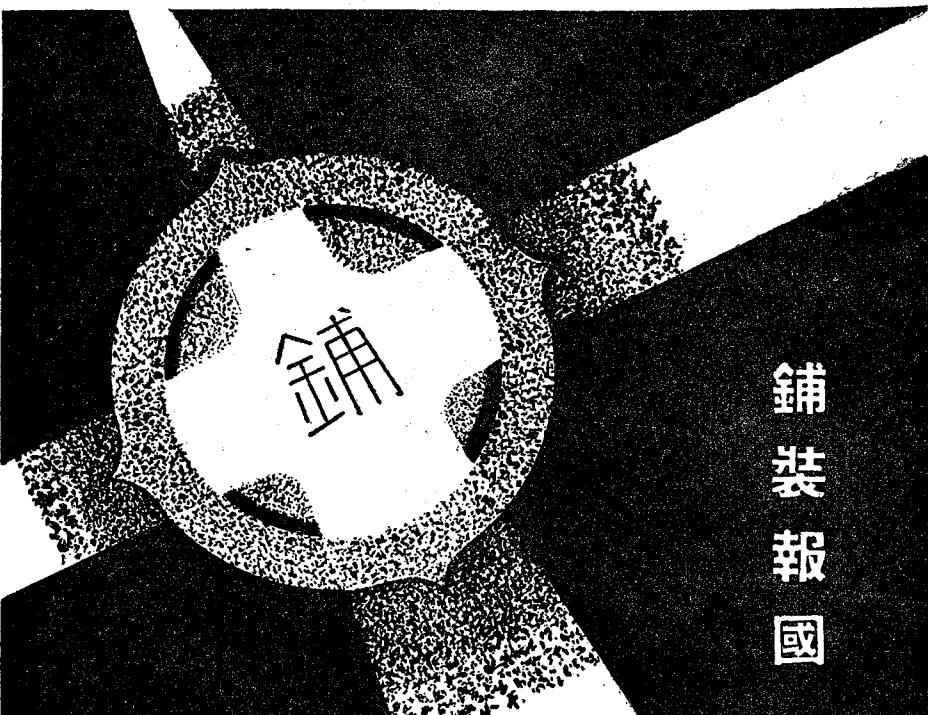
道路の改良

第二十二卷
第一二號

法社
人團

道路改良會

鋪裝報國



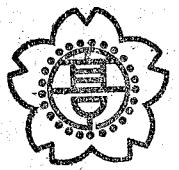
鋪

東京・丸之内

日本鋪道株式會社

東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橋梁・名古屋
社長 漢利三郎 京都

土木建築
道路鋪裝工事請負



株式會社

高野組

本社

東京市京橋區京橋一ノ二

電話京橋(56)一九二三番

大阪出張所

大阪市北區梅ヶ枝町一五七(梅ヶ枝ビル)

電話北(36)一九五六番

福岡出張所

福岡市外箱崎町白瀬網屋三二二一

電話東三三三四五番

上海出張所

上海吳淞町一八九番

電話三四二一三番

道路の改良 第二十二卷 第一號 目次 昭和十五年二月一日發行

口 繪 野崎橋（栃木縣）

卷頭言

論 説

自動車の運用とその騒音とに就て 早稻田大學教授 島田孝一(三)

研究

收用立法最近の動向 内務省田口二郎(二)

資料

野崎橋架設工事 東京土木出張所 和田庄藏(三〇)

瑞西に於ける道路制度に就て 四國三郎(四〇)

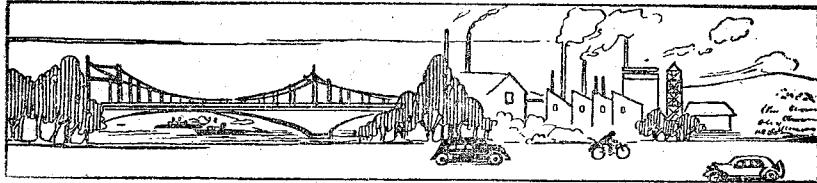
史料

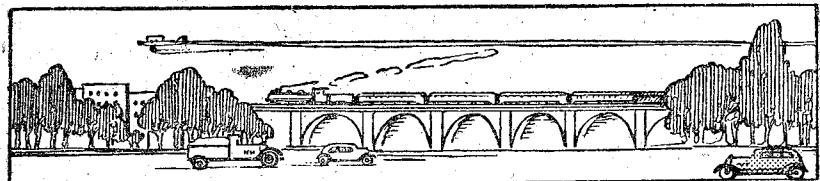
律令時代に於ける道路交通量の増加と其の時代的背景 千葉縣廳 渡部英三郎(四八)

說苑

茨城縣の災害救済土木事業の執行と其の前後(五) 茨城縣廳 龍川勸則(空)

島根縣に於ける旱害應急對策土木事業 島根縣廳 柳樂義雄(さ〇)





東漫北歩
二千六百年間の歩み(一)
時局日誌

内務省特報

○内務大臣の更迭○新内務大臣の挨拶

海外事情

○獨逸人の眼に映じた米國自動車道路○戰時下に
於ける英國の道路費○街路樹としての果樹栽培

地方通信

北海道・東山・近畿・九州の各地方

法令

通牒 旱害地方救済應急土木事業功程報告=關スル件
最近内務省に於ける路政關係行政處分例
逐條土地收用法資料

M.O 生(三) 高坂孝三(四二)

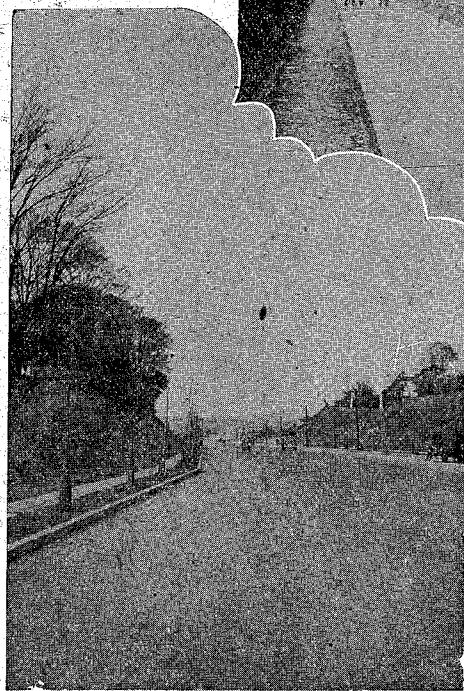
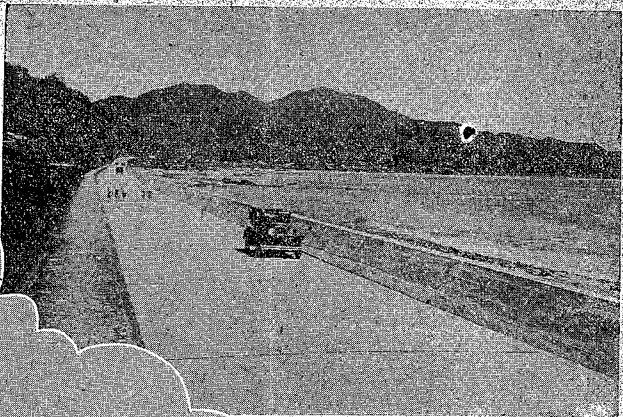
奉祝事業は産業道路鋪装に輝く 其他

路政春秋

雜報 (一六三)

内閣の交迭(新内閣員等の略歴)成田土木局長の略歴(細田德壽氏)土木出張所長事務打合會
利根運河の開鑿(新舊土木局長の挨拶)根津許議員死去(田村保壽氏死去)マニエンタ女史
近刊圖書雑誌(新舊土木局長の挨拶)根津許議員死去(田村保壽氏死去)マニエンタ女史
叙任辭令
編輯室の内外

静岡縣由比國道
→
ペロセメント使用



↑大宮街道志村附近
浅野セメント使用

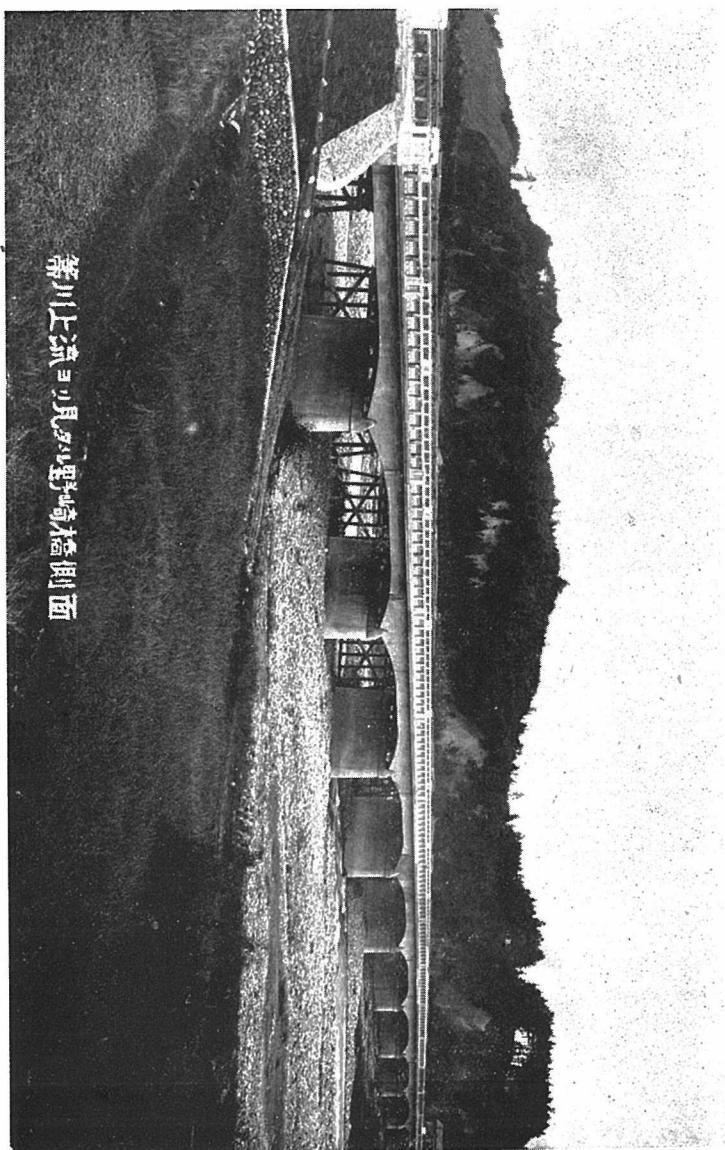
早 強
**アサノ
ペロセメント**
強度高ク
硬リ早ク
使テ經濟

—説明書御申込次第送呈—

浅野セメント株式會社

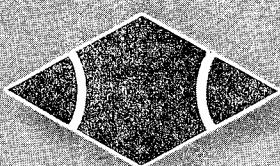
東京市 丸ノ内 海上ビル

野崎橋 (栃木縣)



荒川上流ヨリ見テ野崎橋側面

本誌説苑欄參照



マスプアルト

マスプアルト
マスプアルト
マスプアルト
マスプアルト

小倉石油株式會社
專屬販売店

株式
會社
南部商會

本店 東京丸の内三義六号館・電話丸内 1654-5014
出張所 名古屋市中区南大津通東陽ビル・電話中四 2785 番

訂補重版出來

道路職員必攜

三五判
レザークロース製函入
總頁數一千百餘頁
定價金五圓
送料
内地、壹部、朝鮮、臺灣、關東廳、中國、滿洲
壹部、金十四錢、津太、金十八錢

本書は道路改良計畫並に其の設計の指針として、本會が特に道路技術並行政の權威者に執筆を依嘱し完成したるもので、別記目次の如くその内容の豊富にして充實し居ること、其の記述精緻を極め居ること、携帶に便なるハンドブックなること、印刷裝幨鮮麗にして優雅なること、道路構造令、街路構造令の細則に付きても記述せる點等に於て、我國にては未だ其の比を見ざる出版であり斯界人士の必須書である。

目

大

要

第一編 總論

第一章 論

内務事務官 武若時一郎
内務技師 永田年年
内務技師 小野寺季六
内務技師 沢忠恭

第二編 道路の設計

第一章 計

第一章 道路線の選定
第二章 道路の幅員
第三章 道路の構造
第四章 道路の構造

第五章 道路の構造
第六章 道路の構造

第七章 道路の構造
第八章 道路の構造

第九章 道路の構造
第十章 道路の構造

第三編 土工

第一章 土工

工學博士 眞田秀吉
工學博士 木長久保俊夫

第四編 道路の排水設備

第一章 排水設備

大阪府土木長久保俊夫

第五編 都市計画

第一章 街路

第三章 撥道
第四章 駐止
第五章 道路占用
第六章 工作物

第二章 街路

内務技師 仙臺鐵道局長 平山復一郎
内務技師 鈴木清一郎
内務技師 木子源一郎
内務技師 木谷英寬
内務技師 佐藤利一
内務技師 横井一記之

第三章 街路

内務技師 東京府土木部長 金鈴子
内務技師 木木源一郎
内務技師 木谷英寬
内務技師 佐藤利一
内務技師 横井一記之

第四章 街路

内務技師 仙臺鐵道局長 平山復一郎
内務技師 鈴木清一郎
内務技師 木子源一郎
内務技師 木谷英寬
内務技師 佐藤利一
内務技師 横井一記之

第六編 維持及修繕

第一章 修繕

第一編 維持及修繕

第二章 修繕

第一編 維持及修繕

第三章 修繕

第一編 維持及修繕

第四章 修繕

第一編 維持及修繕

第五章 修繕

第一編 維持及修繕

第六章 修繕

第一編 維持及修繕

第七章 修繕

第一編 維持及修繕

第八章 修繕

第一編 維持及修繕

第九章 修繕

第一編 維持及修繕

第十章 修繕

第一編 維持及修繕

第十一章 修繕

第一編 維持及修繕

第十二章 修繕

第一編 維持及修繕

第十三章 修繕

第一編 維持及修繕

第十四章 修繕

第一編 維持及修繕

第十五章 修繕

第一編 維持及修繕

第十六章 修繕

第一編 維持及修繕

第十七章 修繕

第一編 維持及修繕

第十八章 修繕

第一編 維持及修繕

第十九章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十一章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十二章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十三章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十四章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十五章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十六章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十七章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十八章 修繕

第一編 維持及修繕

第二十九章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十一章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十二章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十三章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十四章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十五章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十六章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十七章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十八章 修繕

第一編 維持及修繕

第三十九章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十一章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十二章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十三章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十四章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十五章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十六章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十七章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十八章 修繕

第一編 維持及修繕

第四十九章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十一章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十二章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十三章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十四章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十五章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十六章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十七章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十八章 修繕

第一編 維持及修繕

第五十九章 修繕

第一編 維持及修繕

第六十章 修繕

第一編 維持及修繕

第六十一章 修繕

第一編 維持及修繕



第五装補路道トルアフスア
事立装補トルアフターハウ剝乳青澀
販賣代理トルアフターハウ・トルアフスア倉小
販賣造製ケソイフルヒサア

都市工株式會社

東京市橋本區橋本町二丁目二番地
電話番號八六二二(50) 橋本 話電

道路の改良

昭和十五年

二月一日

第十二卷
第二號

言頭卷

依らず、這次日本國民生活事變勃發以來近衛、平沼兩內閣を経て、阿部内閣に至り事變處理を目標として邁進したるに拘はらず、衆望の組織部内閣も亦定然として退却するの已むを得ざることとなつた。近衛内閣が突如として退却したる後繼内閣は何人に解消せられきか、國として殆んど日を同じうして瓦解した。此歴史的大變轉期に際し後繼内閣は何人に解消せられたる所は近衛文麿公は大なる鬱心をもつて事態を監視した。此が、經濟問題に於て必しに鑑みたる點である。條件の下に現下の監視は戰場に臨む場合と異つて勇氣や決心をもつて政局を擔當することは良心が許さない」と意味深長な